派遣報告書（報告者；穴見健吾）

大会名	京王 Jr. ウィンターカップ 2024-2025
開催地	東京都調布市 武蔵野の森 総合スポーツプラザ
日時	令和7年1月4日（土）～6日（月）
担当ゲーム1	（1回戦） BIGEIGHTBASKETBALLCLUB（群馬） v s REDFORCES（大阪）
相手審判	CC：吉田 常海（島根） U1：砂原 崇志（東京） U2：穴見 健吾（大分）
Pre-Game Conference	
<ul style="list-style-type: none"> ○テンポセットの意識 同じ現象を同じように吹く ○プライマリが責任を持ってコールする デュアルのときはアイコンタクト→レポート ○初めてのクルーだからこそ、ベーシックなメカニクスを意識する 	
Post-Game Conference	
<ul style="list-style-type: none"> ○初めてのクルー同士だったが、ベーシックなメカニクスを実践することができていた。 ○プライマリが責任をもってコールすることができていた。 ○テンポセットの部分で自分が取り上げるべきファウルやヴァイオレーションを逃してしまった。 より良い角度を求めてポジションアジャストを意識する。 	
担当ゲーム2	（2回戦） バンビシヤス奈良 U15（奈良） v s BOつくば Evolution（茨城）
相手審判	CC：塩見 大介（東京） U1：稲田 翔人（東京） U2：穴見 健吾（大分）
Pre-Game Conference	
<ul style="list-style-type: none"> ○プレー分析 3Pを多用する傾向→3or2に気を付ける。リードのピークを意識。 ○シンプルなプレーコーリングとメカの実践 ○プライマリのテイク 	
Post-Game Conference	
<ul style="list-style-type: none"> ○3or2の確認がクルー同士でよくできていた。 ○鳴るべきところで笛が入っており、競った試合展開だったが、選手もプレーに集中して取り組んでいる様子があった。 ○4Q残り2分頃の時点で自分が鳴らしたオフェンスファウルについて。ムービングスクリーンを取り上げたが、試合展開にマッチしていたかどうか。ビジーな状況だったからこそ、メカを信じることの大切さ。 	
担当ゲーム3	（3回戦） KD PIRANHANS（群馬） v s 仙台市立五橋中学校（宮城）
相手審判	CC：岩田 明穂（東京） U1：穴見 健吾（大分） U2：山宮 紅葉（埼玉）
Pre-Game Conference	
<ul style="list-style-type: none"> ○チームスカウティング・・・得点源の選手は誰か、チーム戦術はどのようなものか ○プライマリの理解。デュアルで鳴ったときは必ずアイコンタクト ○ベーシックなメカに一試合を通してクルーで取り組む。 	

Post-Game Conference

- テンポセットで白の手のファウルを取り上げることができた。
後半に少しくずれてしまった部分があるので、一試合通して同じものを同じように吹くことを意識する。
- クルー同士の連携がよく取れていた。
- ベンチとのコミュニケーション・・・無視せず、何があったのかを、明確かつ簡潔に伝える。

今大会に参加しての感想など

今大会では3試合の割当てを頂き、大きな経験となりました。

試合展開の予測が難しい大会で、クルーやベンチとのコミュニケーションの大切さを痛感しました。インターバル中はもちろん、アイコンタクトやハンドサインなどを細かくしていくことでスムーズなゲーム展開をつくれることを感じました。昨年全中を経験させていただき、その反省を今大会で実践できた部分があり、大きな収穫となりました。

一方で、プレゲームカンファレンスで確認した部分をコート上で実践していくことの難しさを感じました。特にテンポセットを意識しすぎて消極的になってしまった場面がありました。また、リードやトレイルにいるときのポジションアジャスト、何を見たいのか、何のためにそこにいるのかをもっと考えて動かなければならないと感じました。この経験を県内にも還元できるよう一層努力していきたいです。

今回の派遣に際しまして、大分県バスケットボール協会の関係者の皆様をはじめ、職場、家族の理解と応援をいただきました。この場をお借りして、心より御礼申し上げます。